

ワールド・ソブリンインカム (1年決算型) (愛称 十二単衣(1年決算型))

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2017年9月26日～2018年9月25日

交付運用報告書

第10期(決算日2018年9月25日)

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、「ワールド・ソブリンインカム（1年決算型）（愛称 十二単衣（1年決算型））」は、このたび、第10期の決算を行いました。

当ファンドは、ワールド・ソブリンインカム マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第10期末(2018年9月25日)

基準価額	12,053円
純資産総額	103百万円
第10期	
騰落率	△ 2.2%
分配金(税引前)合計	100円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2017年9月26日～2018年9月25日)



期 首：12,431円

期 末：12,053円 (既払分配金(税引前):100円)

騰落率：△ 2.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。
 (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首(2017年9月25日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
 (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・オーストラリアの債券利回りが小幅に低下し、保有債券の価格が上昇したこと。また、ユーロ圏やイギリスでは、保有債券の利回りの上昇がマイナス要因となったものの、利息収入を含む債券要因全体は小幅なプラスとなったこと。

(主なマイナス要因)

- ・米国の債券利回りが上昇し、保有債券の価格が下落したこと。
- ・オーストラリアドルを筆頭に、米ドル以外の投資通貨が対円で下落したこと。

1万口当たりの費用明細

(2017年9月26日～2018年9月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	137	1.134	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(39)	(0.324)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(91)	(0.756)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(7)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.017	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.011)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料等
合 計	139	1.151	
期中の平均基準価額は、12,097円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

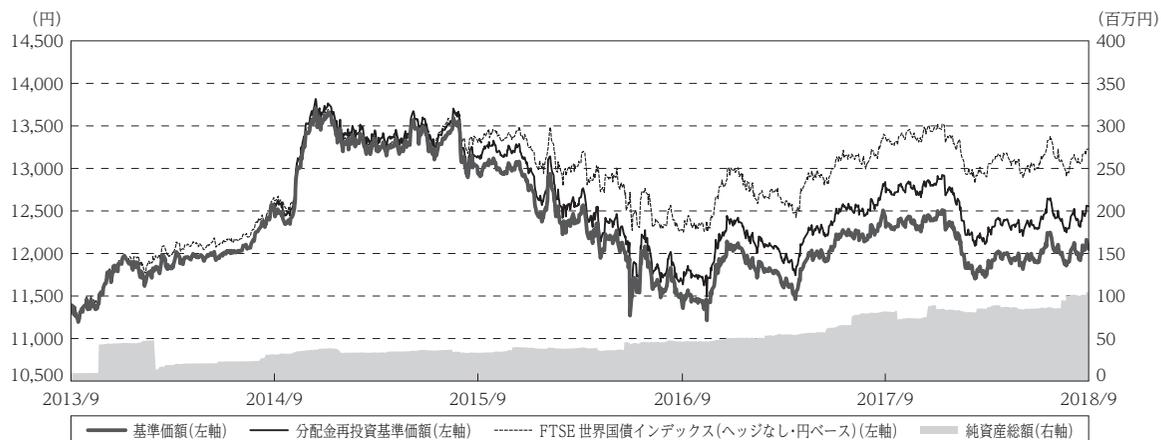
(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年9月25日～2018年9月25日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2013年9月25日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年9月25日 期初	2014年9月25日 決算日	2015年9月25日 決算日	2016年9月26日 決算日	2017年9月25日 決算日	2018年9月25日 決算日
基準価額 (円)	11,354	12,491	12,943	11,383	12,431	12,053
期間分配金合計(税引前) (円)	—	100	100	100	100	100
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	10.9	4.4	△ 11.3	10.1	△ 2.2
FTSE世界国債インデックス (ヘッジなし・円ベース)騰落率 (%)	—	11.2	5.4	△ 7.7	9.0	△ 1.2
純資産総額 (百万円)	9	31	33	46	82	103

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) シティ世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)は、FTSE世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)に名称変更となりました。

投資環境

(2017年9月26日～2018年9月25日)

<投資国の債券市場>

投資国の債券市場では、各中央銀行の金融政策の正常化への動きが利回りの上昇（価格は下落）要因として意識されたものの、各国・地域のインフレ率が低水準で推移したことなどから、2017年12月中旬頃までは、債券利回りが総じてレンジ内でもみ合う展開となりました。その後、米国における減税法案成立や連邦政府の債務上限の大幅引き上げを受けて、2018年2月中旬にかけて、米国債主導で投資国の債券利回りが上昇しましたが、世界的な株安を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、3月末にかけては投資国の債券利回りが低下（価格は上昇）傾向となりました。その後も、米国と他の主要国との貿易摩擦、イタリアの政局不安、トルコリラの急落に伴う新興国市場の混乱等が債券利回りの低下要因となる場面が見られました。しかし、米国経済の好調が続いたこと、米国、カナダ、イギリスの中央銀行が利上げを実施したこと、期末にかけて世界的な株高や原油高が進行したことなどが、投資国の債券利回りの上昇要因となりました。この結果、米国を筆頭に多くの投資国において10年国債利回りが上昇しました。

<為替市場>

為替市場では、北朝鮮情勢の緊迫化に伴う地政学リスクへの懸念が徐々に和らいだことや、世界的な株高を受けて投資家のリスク選好の動きが続き、2018年1月初旬頃までは、投資通貨に対し総じて円安傾向となりました。その後、ドル安基調が強まる中で、ドルに対しては円高が進行する一方、ユーロやイギリスポンドに対しては一段と円安が進行する場面が見られました。しかし、2月に入り、世界的に株価が急落すると、安全資産として円を買う動きが優勢となり、投資通貨に対し円が全面高の展開となりました。4月に入ると、リスク回避の動きが一服したことに加え、米朝首脳会談の開催に向けた動きや、米中の貿易摩擦懸念が一時的に和らいだことなどを受けて、対ドル中心に円安傾向が鮮明となりました。5月下旬以降は、イタリアの政局不安、イギリスの欧州連合（EU）離脱交渉の難航、米中の貿易摩擦懸念の再燃、トルコリラの急落等を背景に、欧州通貨やオーストラリアドルに対し円高が進行しました。しかし、期末にかけては、世界的な株高とともに、投資家のリスク選好の動きが強まり、円が全面安の展開となりました。この結果、当期においては、オーストラリアドルを筆頭に米ドル以外の外貨が対円で下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年9月26日～2018年9月25日)

<ワールド・ソブリンインカム（1年決算型）（愛称 十二単衣（1年決算型））>

「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の受益証券を主要投資対象とし、同受益証券の組入比率を概ね99%台と高位で推移させました。

○ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

7カ国の主要先進国の国債に分散投資するとともに、各国の景気動向、各中央銀行の金融政策スタンス、相場動向等に留意し、金利変動リスクを測る尺度であるデュレーション^{*}を変化させました。デュレーションは、4.95年～7.26年の範囲内での推移となり、期末は5.98年となりました。また、6通貨に分散投資し、相場動向に対応し各通貨の投資比率を変化させることで、為替変動リスクのコントロールを図

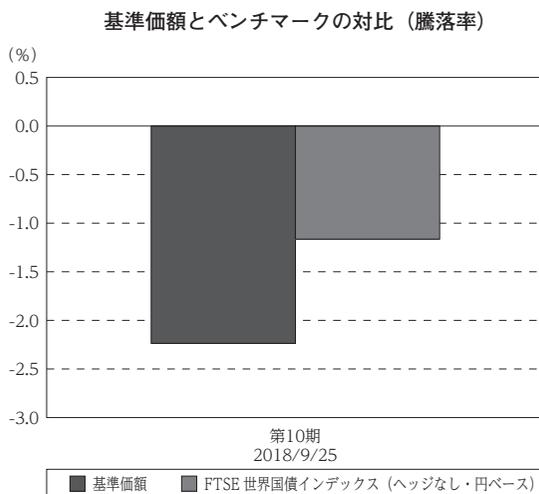
りました。当期間においては、米ドルとユーロ中心のポートフォリオを維持し、外貨建資産の投資比率は80.9%~94.7%の範囲内での推移となりました。円高リスクが懸念される場面では、外貨の投資比率を引き下げる対応を行いました。また、米ドルとユーロに関しては、相場動向に応じて投資比率を変化させましたが、期末にかけては、米ドルの投資比率を引き下げる一方、ユーロの投資比率を引き上げました。この結果、期末時点の投資比率は、米ドルが27%台、ユーロが40%台となり、ベンチマークと比較し、米ドルが低め、ユーロが高めとなりました。オーストラリアドル、カナダドル、イギリスポンドに関しては、相場動向に応じて投資比率を変化させましたが、ベンチマークと比較し、3通貨とも高めの投資比率を維持しました。なお、外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り、為替ヘッジは行いませんでした。

※デュレーション：金利変動に伴う債券価格の変動性を示す指標として用いられ、一般的にこの値が大きい程、金利変動に伴う債券価格の変動リスクが大きくなります。また、対象債券のクーポンが同じであれば、残存期間が長いほどデュレーションは長くなります。デュレーションは保有債券の平均残存年数とは異なり、利付債券の場合、平均残存年数よりも短く表記されます。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年9月26日~2018年9月25日)

分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)の騰落率を1.0%下回りました。ベンチマークと比較し、米国の超長期債の投資比率を高め維持したことに加え、オーストラリアドルやカナダドルの投資比率が高かったことがマイナス要因となりました。一方、イタリア国債へ投資を行わなかったことがプラス要因となりました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金(税引前)込みです。

(注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。

投資対象国の金利と為替

	10年国債利回り（現地終値）			為替相場		
	2017/ 9 /25	2018/ 9 /25	変化幅	2017/ 9 /25	2018/ 9 /25	変化率
アメリカ	2.25%	3.09%	0.84%	112.53	113.02	0.4%
カナダ	2.11%	2.45%	0.34%	91.23	87.29	△ 4.3%
オーストラリア	2.79%	2.70%	△ 0.09%	89.65	82.05	△ 8.5%
日本	0.03%	0.13%	0.10%	—	—	—
ドイツ	0.45%	0.51%	0.06%	134.25	132.81	△ 1.1%
フランス	0.73%	0.83%	0.10%	134.25	132.81	△ 1.1%
イタリア	2.11%	2.95%	0.84%	134.25	132.81	△ 1.1%
イギリス	1.36%	1.61%	0.25%	152.30	148.26	△ 2.7%

(注) 10年国債利回りは、日本を除き当該日の現地前営業日の引値です。

(注) 為替相場は当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値です。

「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の組入資産構成比

	2017/ 9 /25	2018/ 9 /25	変化幅
アメリカ国債	37.3%	27.3%	△ 10.0%
カナダ国債	4.4%	8.6%	4.2%
オーストラリア国債	8.4%	9.5%	1.1%
日本国債	5.3%	2.5%	△ 2.8%
ユーロ	31.5%	39.3%	7.8%
ドイツ国債	16.3%	15.0%	△ 1.3%
フランス国債	15.2%	24.3%	9.1%
イタリア国債	—	—	—
イギリス国債	10.5%	7.3%	△ 3.2%
短期金融商品・その他	2.6%	5.5%	2.9%
保有債券の平均最終利回り	1.18%	1.41%	0.23%
保有債券の平均直接利回り	4.15%	5.00%	0.85%
ファンドのデュレーション	6.51年	5.98年	△ 0.53年
ベンチマークのデュレーション	7.75年	7.78年	0.03年

(注) 各国の保有債券の未収利息に関しては、「短期金融商品・その他」に含めて表示しております。このため、表中の国別構成比と文章中の通貨別投資比率とは正確には一致しません。

(注) 国別構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため合計と合わない場合があります。

(注) 国別構成比は、「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の純資産総額に対する比率です。

分配金

(2017年9月26日～2018年9月25日)

分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入等の全額としております。

当期間におきましては、期末に1万口当たり100円(税引前)の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

項 目	第10期
	2017年9月26日～ 2018年9月25日
当期分配金	100
(対基準価額比率)	0.823%
当期の収益	100
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,767

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(投資環境の見通し)

投資国の債券市場では、主要中央銀行による金融政策正常化の動きが、今後も利回りの上昇要因として働きやすいと見ています。一方、米中の貿易摩擦や欧州の政治リスクへの懸念が残されていることに加え、グローバル化の進展、技術革新、世界的な流通構造の変化が、今後も先進国の物価上昇を抑制すると予想されることから、投資国の債券利回りの上昇余地は限定的と判断しています。為替市場では、国内から海外への直接投資や証券投資が堅調に推移していることや、原油高に伴う日本の貿易収支悪化が続いていることが、引き続き円安要因として働いてくると予想しています。また、日銀は2018年7月に金融緩和策の一部修正を発表しましたが、むしろ金融緩和の長期化観測が強まっており、金融政策の正常化を進める他の主要中央銀行とのスタンスの違いが、円安をサポートする要因になると見ています。一方、新興国通貨に対する過度な悲観論は徐々に後退しつつあるものの、今後は米中の貿易摩擦による世界経済への悪影響等、各種リスク要因が顕在化することにより、円高圧力が強まる場面もあると考えています。

(運用方針)

<ワールド・ソブリンインカム(1年決算型)(愛称 十二単衣(1年決算型))>

主要投資対象である「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の受益証券の組入比率は99%台の高位を維持する方針です。ただし、追加設定・解約の動向等によっては組入比率が高位にならない場合があります。

○ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

世界経済の構造的な変化や国際情勢の動向、各国の景気動向や物価動向、各中央銀行の金融政策スタ

ンス等に留意するとともに、金融市場間の資金の流れを分析することにより、国別・通貨別配分やデュレーションを決定していく方針です。これにより、ポートフォリオの為替変動リスクと金利変動リスクのコントロールを図ってまいります。なお、外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り、原則として為替ヘッジは行わない方針です。

お知らせ

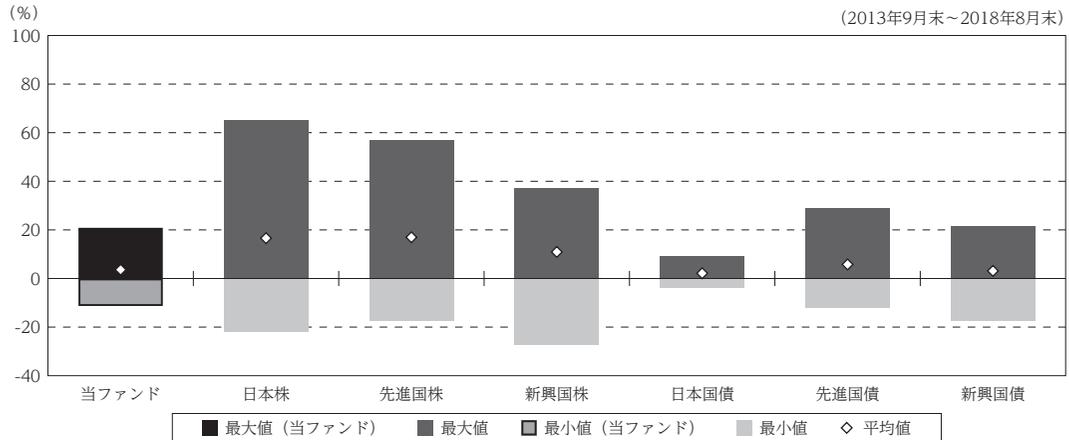
インデックスの名称変更に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。(実施日:2018年1月26日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2008年10月15日から、原則として無期限です。	
運用方針	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。 原則として、外貨建資産の為替ヘッジは行いません。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行います。
	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	日本を含む主要先進国のソブリン債（国債および政府保証債等）に分散投資し、リスク分散を図ったうえで、長期的に安定した収益の確保と信託財産の成長を目指して運用を行います。
分配方針	毎年9月25日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入等には、マザーファンドの利子・配当収入等のうち、投資信託財産に帰属すべき利子・配当収入等を含むものとします。（ファンドの分配対象収益の範囲には、売買益（評価益を含みます。）を含みません。）分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案し、決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	20.9	65.0	57.1	37.2	9.3	29.1	21.4
最小値	△ 11.3	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	3.6	16.6	16.9	10.9	2.1	5.8	3.1

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年9月から2018年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年9月25日現在)

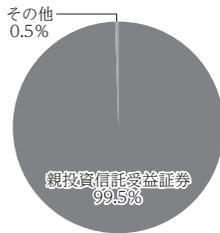
○組入上位ファンド

銘柄名	第10期末
ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	99.5%
組入銘柄数	1銘柄

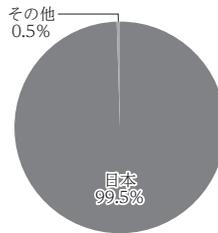
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

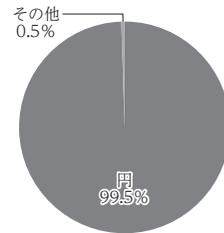
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

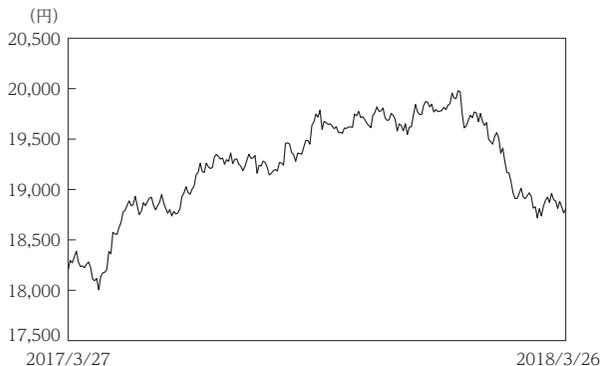
項目	第10期末
	2018年9月25日
純資産総額	103,861,894円
受益権総口数	86,168,108口
1万口当たり基準価額	12,053円

(注) 期中における追加設定元本額は38,176,330円、同解約元本額は18,029,593円です。

組入上位ファンドの概要

ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万円当たりの費用明細】

(2017年3月28日～2018年3月26日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	2 (2)	0.012 (0.011)
(その他)	(0)	(0.001)
合計	2	0.012

期中の平均基準価額は、19,231円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万円当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

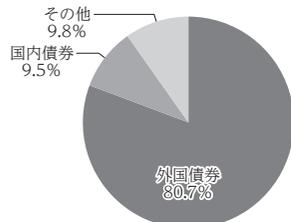
【組入上位10銘柄】

(2018年3月26日現在)

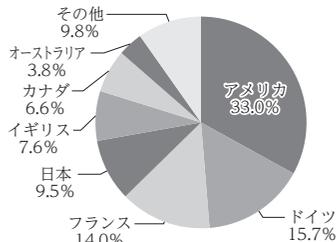
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率	
1 DEUTSCHLAND REP 6.25	国債証券	ユーロ	ドイツ	9.5%	
2 FRANCE O.A.T. 8.5	国債証券	ユーロ	フランス	6.6%	
3 US TREASURY N/B 2.25	国債証券	米ドル	アメリカ	5.9%	
4 US TREASURY N/B 6.25	国債証券	米ドル	アメリカ	5.8%	
5 US TREASURY N/B 9.125	国債証券	米ドル	アメリカ	5.7%	
6 US TREASURY N/B 3	国債証券	米ドル	アメリカ	4.0%	
7 UK TSY GILT 8	国債証券	イギリスポンド	イギリス	3.9%	
8 US TREASURY N/B 2.25	国債証券	米ドル	アメリカ	3.8%	
9 UK TSY GILT 3.5	国債証券	イギリスポンド	イギリス	3.6%	
10 第91回利付国債(20年)	国債証券	円	日本	3.6%	
組入銘柄数		28銘柄			

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

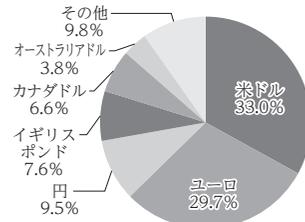
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。
 (注) 通貨別配分につきましては組入債券の通貨別比率を表示しております。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

<当ファンドのベンチマークについて>

FTSE世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA - BPI 国債

NOMURA - BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。